

しゅんこうでん  
春興殿



しゅんこうでん  
春興殿は、京都御所で行われた大正天皇の即位礼に合わせて大正4年(1915)に造営されました。式の際、皇位とともに継承される三種の神器の一つ「御鏡」を皇居からお移して奉安し、賢所大前の儀を行った建物です。



昭和即位礼時の春興殿前(昭和大礼要録より)

江戸時代からこの紫宸殿東方の場所には春興殿があり、御鏡を奉安する内侍所とされていました。安政度内裏の春興殿は明治時代に取り払われ、その後現在の総檜造、銅板葺、入母屋造の建物が建てられたもので、以後100年弱、大きな手を加えることなく、現在に至っています。

春興殿の前は広く開けた敷地となっており、大正・昭和の即位礼の際にはここに神楽舎や幄舎などが臨時に建てられました。現在、春秋の京都御所一般公開時にはここで雅楽や蹴鞠の催しを行っています。



春興殿前建物解体風景【昭和4年9月】  
(京都事務所保存のガラス乾板より)